子ども議員 任命式が行われました！

～緊張と期待の中、いよいよ活動がスタート～

2024年7月27日(土)

滋賀県
子ども県議会
事務局発行 / No.1

県内各地から選ばれた小学4年生から中学3年生の40名の子ども議員が集まり、任命式が開催されました。子どもたちが、緊張と期待の中、新たな1年をスタートしました。

緊張のスタート

会場には、緊張した面持ちで集まった子どもたちの姿がありました。新品の「子ども議員ファイル」を手に取って確認したり、2期目の子ども議員同士が再会を喜び合ったりする姿が見られる一方で、初めての参加で緊張した表情の子たちも多くいました。そんな中、サポーターやリーダーたちが声をかけ、徐々に場の雰囲気が和らいでいきました。

子ども県議会についての説明

子どもたちは、子ども県議会の仕組みや目的、これからのスケジュールについて、サポーターや担当の県庁職員さんから説明を受けました。子どもたちは興味深そうに耳を傾け、メモを取る姿も見られました。

自己紹介ゲームで打ち解ける

自己紹介ゲームを通して緊張をほぐしました。子どもたちの笑顔が次第に増え、会場に明るい雰囲気が広がっていきました。積極的に自分たちの名前を伝えていました。

身が引き締まる、任命式

午後には、いよいよ正式な任命式が執り行われました。知事も出席され、ひとりひとりに任命書を手渡される際、子どもたちは緊張した面持ちながらも凛々しい表情を見せていました。知事からは、これから活動に取り組む子どもたちへ向けて、心に響くメッセージが贈られました。知事はまず、「自分の名前を大切にしてほしい」というメッセージと、ウクライナや病気の子、被災地で苦しんでいる子どもたちの現状に触れ、世界や周囲への関心を持つ大切さを伝えられました。

3つの大切にしてほしい「み」

1.身の回りの「み」自分の周囲や日常の出来事に目を向け、大切にしてほしいこと。

2.みんなの「み」自分だけでなく、周りの人々と助け合う意識を持つこと。

3.未来の「み」今だけではなく、大人になったときの未来を見据えて行動すること。

「今の自分を大事にするだけでなく、大人になった自分のことも考えながら行動してほしい」という知事の言葉は、子どもたちにとってこれからの活動の指針となったようです。

プレ活動で未来への一歩

任命式後には、自己紹介ゲームの続きを含めたアイスブレイクを行い、さらに和やかな雰囲気に。続いて、子どもたちは自分たちがエントリーシートに書いた内容を振り返りながら、「滋賀県の課題」や「未来の滋賀県の姿」について意見交換を行いました。初回ながら、すでに多くの具体的な意見が出ており、楽しそうに活動する姿が印象的でした。今日のめあて「1年間一緒に過ごす仲間と交流を深めよう」について、終了後のアンケートでは、90%の子どもたちが「達成した」と答え、大成功のスタートとなりました。

次回は地域体験活動へ！

次回は、近江八幡のたねやさんや彦根の近江鉄道さんを訪問し、滋賀県の魅力や地域の課題を体感する予定です。これからの活動を通じて、子どもたちがどのように成長し、滋賀県の未来を描いていくのか、ますます楽しみです！

子どもたちの感想

はじめてだったけど、友達ができたり、みんなと楽しく話し合えたりした。滋賀県を楽しく笑顔が溢れる滋賀にしたいと思った。もっと交流を深めたい。

緊張したけど、すぐ友達ができたので楽しかった。自分の想いを伝えられて書けた。三日月知事に任命書をもらった時、とても嬉しかった。次の子ども議会が楽しみ! 目当て達成!

初めてで、とても緊張したし、不安だったけど、この短い時間でいろんな人と交流できて、次の会が楽しみになりました!

地域体験活動(1)

株式会社たねや・クラブハリエ訪問

～地域の魅力と自然と共生するサスティナブルな運営を学ぶ～

2024年9月8日(金)

滋賀県
子ども県議会
事務局発行 / No.2

地域体験活動では、子どもたちが県庁を飛び出し、地域に根付いた施設や団体を訪問し、直接お話を伺うことで、滋賀県の魅力や課題について学びます。今年は4か所の協力をいただき、子ども議員たちは各地で貴重な体験をしています。

たねや・クラブハリエ訪問の様子

9月8日、子ども議員たちは年間409万人の来場者を誇る滋賀県の人気観光施設、株式会社たねや・クラブハリエさんを訪問しました。この日は特別に、お客様が入ることのできない場所にも足を踏み入れ、たねやさんの裏側に密着する貴重な体験をさせていただきました。

スケジュールと体験内容

1日の活動は、たねやさんの「しあわせ推進室」室長 田原さんによる説明からスタートしました。田原さんは、たねやの会社理念や運営の取り組みについて丁寧にお話しくださいました。その後、子どもたちは以下のような場所を見学・体験しました

・敷地を見渡せる塔の上
高台から施設全体を見渡しながら、たねやさんがどのように自然と共生しているかを学びました。

・バームクーヘンなどの製造ラインの工場
子どもたちは、バームクーヘンやその他のお菓子が作られる製造ラインを見学しました。製造のプロセスやフードロスを最小限に抑えるための工夫、製品の品質管理などについて学びました。

・田植えの場所
田植えが行われているエリアでは、自然との関わり方や地域農業への配慮について学ぶ機会がありました。

・社員専用の食堂
子どもたちは、社員が利用する食堂で食事をし、働く人たちが快適に過ごせる環境づくりの工夫に触れました。

たねやさんご紹介

たねやは、1872年創業の老舗菓子メーカーで、滋賀県を拠点に全国展開しています。素材にこだわり、北海道十勝地方の小豆や滋賀県の良質な地下水を使用するなど、安全・安心のお菓子作りを実践。戦後生まれの栗饅頭や洋菓子ブランド「クラブハリエ」も人気です。さらに、お菓子作りを越えた持続可能な社会の実現や農業の発展を目指し、地域や環境と共生する姿勢が特徴です。こうしたことから今回「観光・魅力・環境・琵琶湖」の分野でお話をいただけないかご相談しました。

子どもたちの学びと感想

子どもたちは、たねやさんの取り組みから多くのことを学びました。一部の感想をご紹介します。

・地球温暖化対策と持続可能な社会の実現
「地球温暖化を抑えつつ、持続可能な社会を率先して作っており、滋賀の魅力を全国に発信していることがわかった。」

・自然との共生と製品作りの工夫
「自然を大切にしながら、バームクーヘンやお菓子・和菓子を作っていることに感動した。フードロスを防ぐために、社員さんがたくさんの工夫をしていることが印象的だった。」

・全国に伝える自然との共生
「周りの会社だけでなく、草や水などの自然も大切にしていることが素晴らしいと感じた。こうした施設を作ることで、全国の人々に自然と共に生きる姿勢を届けていることが素晴らしいと思った。」

・たねやさんの「心構え」
「たねやさんが大切にしている『心構え』は、自然の恩恵を間近で感じられる社員環境や、会社や社会の原点を振り返る環境があるからこそ生まれるものだと感じました。原材料を無駄にせず、感情を込めて作り出されるその姿勢は、理想の営業スタイルとして全国に広がってほしいと思いました。」

まとめと今後の活動に向けて

たねやさんの訪問を通じて、子どもたちは自然との共生や働く人たちへの配慮の大切さを学びました。お客様だけでなく、地域や社員を大切にする姿勢から、たねやさんが持続可能な社会づくりにどのように貢献しているかを実感する機会となりました。このような体験を通じて、子どもたちは地域の魅力を深く知り、滋賀県の未来について具体的な考えを持つようになります。次回の地域体験活動も楽しみにしてください！

地域体験活動(1)

株式会社 近江鉄道 訪問

～近江鉄道の取り組みを学ぶ～

2024年9月8日

滋賀県
子ども県議会
事務局発行 / No.3

地域体験活動では、子どもたちが県庁を飛び出し、地域に根付いた施設や団体を訪問し、直接お話を伺うことで、滋賀県の魅力や課題について学びます。今年は4か所の協力をいただき、子ども議員たちは各地で貴重な体験をしています。

近江鉄道本社へ訪問 & 実際に乗車

子どもたちは、地域体験活動の一環として、「近江鉄道」さんの取り組みについてお話を伺いました。「近江鉄道」さんは、59.5km、33駅を結ぶ鉄道を中心に事業を展開しています。かつて1967年には1,126万人の利用者がありましたが、現在は460万人にまで減少。1994年度から赤字が続いており、現在は上下分離方式で運営されています。鉄道運営を「近江鉄道」さんが担い、施設や車両の維持を自治体などが担当する形です。

「近江鉄道」さんの役割として、利用促進や沿線地域の活性化、魅力発信、ファンの育成などが挙げられます。その具体例として、「近江ビア電」のような企画列車の運行や、地域住民と鉄道のあり方を共に考える「近江鉄道未来ファクトリー」などの活動が紹介されました。子どもたちは、「近江鉄道」さんの地域貢献と未来を見据えた取り組みについて学び、多くの発見を得た様子でした。

ガチャフェスから見る沿線の盛り上げ方

2022年に開催された「ガチャフェス」では、全線無料にして、沿線ではたくさんのイベントを実施していました。目標10,000人のところを、1日で38,000人が利用し大盛況。2023年度も20,000人の利用がありました。課題も多いが、いろんな解決策や改善策をどんどん実行する近江鉄道さんの取り組みに子どもたちは、興味津々に話を聞いていました。伺った取り組みを滋賀県全体に広げるためにどうしたらいいのかということで、実際に近江鉄道に乗りました。

近江鉄道さんご紹介

琵琶湖の東岸、彦根市・東近江市を中心とする湖東平野に、本線（米原～貴生川）、多賀線（高宮～多賀大社前）、八日市線（八日市～近江八幡）の59.5kmとなる鉄道を運行しています。沿線住民の交通の便として、また湖国滋賀の観光の便としてご利用いただいております。今回は、公共交通がテーマなので、公共交通と地域活性化、また観光魅力の面で、子どもたちにお話をいただきました。

子どもたちの学びと感想

近江鉄道の取り組みについて学んだ子どもたちから、以下のような感想が寄せられました。

・地域活性化の取り組みについての気づき
「地域でのイベントを通じて街を活性化する取り組みを知ることができた。」

・滋賀県全体への影響
「いろんなイベントや企画切符の取り組みを詳しく聞いて、滋賀県全体の交通にも活かせると思った。」

・鉄道の重要性
「近江鉄道がなくなると、不便に感じる人が多くいることがわかった。特に学生の3割が困るということを知り、その必要性を改めて感じた。」

・実際の利用状況の発見
「以前はガラガラのイメージを持っていたけれど、実際に乗ってみると多くの人が利用していて、企画切符が良い効果を生んでいると感じた。」

・課題への理解
「整備費用などでお金が不足している現状があることがわかった。」

・運営の工夫に感銘
「ただ電車を増やせばいいわけではなく、JRには利便性で勝てない中、地域やイベントに合わせた運営をしていることが素晴らしいと思った。」

まとめと今後の活動に向けて

子どもたちは、近江鉄道が地域にとってどれほど重要な役割を果たしているのか、またその運営が地域や人々に密着した工夫によって支えられていることを学ぶ貴重な機会を得ました。こうした気づきが、滋賀県の交通や地域活性化について考えるきっかけとなっています。

地域体験活動(2)
長浜市 itteki 訪問
～若者がつながる居場所と地域活性化の取り組み～
2024年 9月15日(日)

滋賀県
子ども県議会
事務局発行 / No.4

いつも温かいご支援をいただきありがとうございます。地域体験活動では、子どもたちが県庁を飛び出し、地域に根付いた施設や団体を訪問し、直接お話を伺うことで、滋賀県の魅力や課題について学びます。今年は4か所の協力をいただき、子ども議員たちは各地で貴重な体験をしています。

「itteki」とは？

子どもたちは、長浜市にある「itteki」を訪問し、移住者であり若手社会起業家の中井さん（24歳）と、長浜市役所の未来こども若者課の小川さんからお話を伺いました。大阪から移住した中井さんが運営する合同会社andstepが中心となり、地域に根付いた居場所づくりを推進しています。

・目的
「itteki」は、高校生や大学生が自己肯定感を高め、地域への愛着を育む居場所として設立されました。人口減少が進む長浜市において、若者が地域とつながりを持ち、活気を生み出すための取り組みを行っています。

・利用者数
開設以来、利用者数は7,000人超に達しており、多くの若者に支持されています。

・主な活動内容
高校生たちが自由に勉強や自習をしたり、友人と会話を楽しむだけでなく、地域の人々と共にプロジェクトを進める場としても機能しています。こうした共創の場を通じて、地域活性化にも貢献しています。

子どもたちの学び

子どもたちは、「itteki」の取り組みを通じて、以下のような学びを得ました。
・地域に居場所を作ることが若者の成長と地域活性化につながること。
・高校生たちが主体的に活動する姿から、地域とのつながりが生まれる重要性を実感。
・「itteki」が目指す、若者の自己肯定感を高める場づくりが大切であること。
・勉強や友人との交流だけでなく、地域の人々と協力して進めるプロジェクトが生まれていること。
・人口減少が進む長浜市で、若者と地域のつながりを強めることの重要性。
子どもたちは、地域に居場所を作る意義や、若者と地域の共創による新たな価値づくりについて多くを学びました。

中井さんご紹介

中井さんは、合同会社andstepを運営し、長浜市にある若者のための居場所「itteki」のユースワーカーを務める24歳の若手社会起業家です。大阪から長浜市に移住し、「地域を活性化し、若者が輝ける場を作りたい」という思いで活動を続けています。子どもたちに中井さんはじめとする若手社会起業家が滋賀県の課題に取り組むことを子どもたちに伝えて欲しい思いからお願いしました。今回のテーマは「地域活性・若者・子ども・移住・人口減少」です。

子どもたちの感想から

子どもたちは、長浜市の「itteki」を訪問し、その取り組みや施設の重要性について多くの気づきを得ました。以下に主な感想をまとめました。

・地域全体への期待
「ittekiの取り組みを長浜市だけでなく、滋賀県全体に広げたい。滋賀には、ittekiのような施設が少ないと感じる。」
「空き家などを活用して、同じような施設がもっと増えたらいいと思った。」

・自分たちの街での希望
「自分の街にもこういう施設があればいいなと思った。」
「湖南市にもittekiのような場所が欲しい。」

・新しい発見
「こんな活動があることや、こんなことをしている人がいることを初めて知った。」
「滋賀県全体にこうした取り組みが広がってほしい。」

・居場所の重要性
「ittekiは、みんなが安心して過ごせる居場所だと思った。」
「高校生になったら、自分もこういう場所を利用したい。」

まとめと今後の活動に向けて

子どもたちは「itteki」が提供する安心できる環境や、地域に根差した活動の意義を深く理解し、自分たちの住む地域にもこうした取り組みが広がることを望む声が多く挙がりました。この体験が、滋賀県全体の未来を考える貴重なきっかけとなったようです。

地域体験活動(3)
近江八幡市 Since 訪問
～不登校と多様な生き方を学ぶ～
2024年9月23日(月・祝)

滋賀県
子ども県議会
事務局発行 / No.5

地域体験活動では、子どもたちが県庁を飛び出し、地域に根付いた施設や団体を訪問し、直接お話を伺うことで、滋賀県の魅力や課題について学びます。今年は4か所の協力をいただき、子ども議員たちは各地で貴重な体験をしています。

「Since」とは？

子どもたちは、NPO法人「Since」を訪問し、不登校の現状や、多様な生き方について学びました。「Since」は、不登校の子どもたちが安心して過ごせる居場所や、新たな学びの場を提供し、子どもたちの自己肯定感を高める活動を行っています。

学びの内容

1.不登校の現状
・滋賀県の小中学生で不登校は3,385名（令和4年度）中学生では約17人に1人が該当すると言われています。
•不登校の背景には、学校と社会とのギャップや、多様な生き方への理解不足が挙げられました。

2.大切なメッセージ
「居たい場所に居ていい」「頑張る自分も、頑張らない自分も大切」「しなやかに生きることの大切さ」など、不登校の子どもたちに向けたメッセージが紹介されました。これらは、すべての子どもたちにとって生き方を考えるきっかけとなりました。

3.多様な学びと居場所の提供
•「Since」は、フリースクールを運営し、学びの選択肢を広げる取り組みを進めています。
•子どもたちが「安心できる場所」としての受容感を得られることを大切にしています。

4.利用されるお子さんの声
•「学校に行く以外にも、自分の学び方を選べる時代になっていると感じた。」
•「誰もが安心できる居場所があることは大切だと思った。」
•「不登校の子の気持ちや背景を知り、社会全体でサポートが必要だと感じた。」

麻生さんご紹介

麻生さん(フリースクールSince 代表理事) は26歳。中学生時代に不登校を経験。当時、「不登校になって、人生が終わった。」と絶望。しかし、保護者の受け止め、学校外の居場所、友人との出会いで、徐々に前向きに過ごせるように。そのような経験から、大学時代の仲間と共に、フリースクールを開校。学校に行っている子も、行っていない子どもも健やかに育つ社会の実現を目指している。2024年より NPO法人フリースクール全国ネットワーク理事に就任。
麻生さんには中井さん同様若手起業家として「不登校や学校・教育・子ども・多様性」について話してもらいました。

子どもたちの感想から

「Since」を訪問し、不登校や多様な生き方について学んだ子どもたちから、以下のような感想が寄せられました。

・子どもたちを尊重する姿勢への感動
「来ている子どもたちを尊重することの大切さを学んだ。」
「一人一人を大切にされていることを知りました。」

・不登校の背景への理解
「なぜ不登校になるんだろうと思っていましたが、その理由が分かりました。」
「学校に通えていない人たちがいる現実を知り、支援が必要だと感じた。」

・居場所づくりの重要性
「居たい場所にいていいという言葉が沁みました。」
「居場所を作ることの大切さを知りました。」
「保健室にもこういう場所があるという紹介をもっと広げてほしい。」

・若者が起こす社会変革
「若い人でも努力すれば、社会活動やフリースクールを作ることができると知りました。」「海外の事例や取り組みにも興味を持ちました。」

まとめと今後の活動に向けて

子どもたちは、不登校の背景や課題に触れ、自分たちが地域や社会でどのように役立てるかを考えるきっかけを得ました。また、「居場所」の重要性を改めて理解し、自身の行動や周囲への視点を広げる貴重な経験となりました。

国際理解と平和について学ぶ＆提案文作りスタート！
～第1回 学習会 活動報告～
2024年10月6日(日)

滋賀県
子ども県議会
事務局発行 / No.6

地域体験活動を終え、子どもたちは県庁に戻り、午前中には特別講話を通じて国際理解と平和について学びました。ゲストスピーカーをお招きし、戦時中に人形を用いた交流をテーマにした「青い目の人形」のお話を伺いました。

「青い目の人形」と平和へのメッセージ

午前中は、平和学習を行いました。来年に戦後80周年を迎えるにあたり、ヴォーリズ学園の藤澤理事長から、平和についてのお話を伺いました。お話の中では、来年で戦後80年を迎えるのを前に、戦争中の時代背景や国際交流の意義について詳しくご紹介いただきました。戦時中に「青い目の人形」を通じて敵国であるアメリカと繋がり、交流が行われていた事実は、子どもたちにとって大きな驚きと学びになりました。また、第一次世界大戦中の「クリスマス休戦」のお話もあり、戦争という厳しい状況の中でも、人と人がつながることの可能性を感じる機会となりました。

子どもたちの感想

「人形を通じて敵国と繋がることができることに驚きました。」「時代背景によって人の考えや行動が変わることを改めて知りました。」「お話を聞いて戦争の恐ろしさを改めて感じました。」「戦争中でも交流を続けることの大切さを学びました。」「第一次世界大戦中のクリスマス休戦のお話がとても感動的でした。」

まとめと今後に向けて

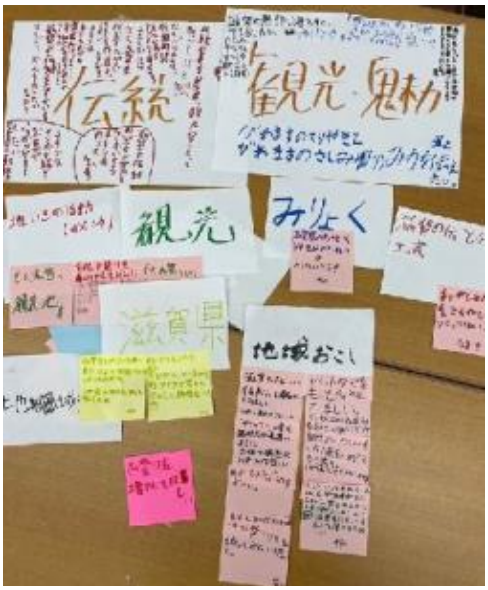
子どもたちは「青い目の人形」や「クリスマス休戦」のお話を通じて、戦争という悲惨な状況の中でも、人と人とのつながりや交流が生まれる可能性を学びました。戦争の恐ろしさを再認識する一方で、平和を築くために必要な努力や互いを理解し合うことの大切さを感じ取ったようです。単に歴史を学ぶだけでなく、未来を担う子どもたちが、自分たちに何ができるかを考えるきっかけになりました。この学びを活かし、滋賀県の未来や地域社会での活動に取り組んでいく姿勢がさらに期待されます。次回の活動では、また新たな発見と成長が見られることでしょう。

藤澤先生ご紹介

近江八幡にあるヴォーリズ学園 の 理事長　藤澤　俊樹 先生にお話をいただきました。藤澤先生は「ドールネットワーク滋賀」の代表も務められており、人形を通じた国際交流や平和のメッセージを広める活動を行っています。戦時中の「青い目の人形」から始まった歴史を引き継ぎ、現在では人形を媒介にした地域や国際間のつながりを深める取り組みが特徴です。今回は来年に戦後80年を迎えることから、子どもたちに国際理解と平和についてのお話をしていただきました。「テーマとして国際理解・平和・文化・人権多様性」です。

お昼からは学習会で提案文作りスタート

午後からの学習会では、子どもたちが自分たちの興味や関心を付箋にまとめ、発表しました。その後、出てきた意見をテーマごとに整理し、カテゴライズしました。多くの意見が集まり、子どもたちの多様な視点や関心が見える有意義な時間となりました。今年のテーマになっているもの以外のものもありました。



次回は、今回出たテーマを基に、子どもたちが自分たちの興味に応じたチームに分かれます。各チームでさらに議論を深め、具体的な提案文作りに取り組む予定です。この活動を通じて、子どもたちが主体的に考え、行動する力を育むとともに、滋賀県の未来について考えるきっかけになればと思います。

引き続き、子どもたちの成長と取り組みをどうぞお楽しみに！

すまいるあくしょんフェスタに行ってみた!

～子ども議員を代表して～

2024年10月12日(土)

滋賀県
子ども県議会
事務局発行 / No.7

今回は、子ども議員を代表して米原市で開催された「すまいるあくしょんフェスタ」のお手伝いに、子ども議員の中から4名が代表して参加してくれました。その時の様子をご報告いたします。

活動内容として…

4名の子ども議員は、当日の開会宣言とすまいるあくしょん宣誓を務めたほか、総合司会という重要な役割を果たしました。また、待機時間には、積極的に会場内のさまざまなブースを巡り、子ども目線での体験リポートを行いました。さらに、会場では取材を受ける機会もあり、大忙しの1日となりました。滋賀県の魅力や子どもたち向けの取り組みを、子ども議員ならではの視点でしっかりと伝えてくれました。

子ども議員の挑戦と意義

子ども議員が県の公式イベントに参加し、重要な役割を担うのは非常に珍しい取り組みです。今回の参加を通じて、子どもたちは、単なる体験ではなく、「代表」としての責任感を強く感じる貴重な経験をしました。また、滋賀県の取り組みや魅力を広める中で、地域と深く関わる意識が芽生えたことは大きな成果です。自分たちの声を届けるという責任を果たした4名の姿は、ほかの子ども議員や地域の人々にも良い刺激となったことでしょう。

感謝とこれからの期待

今回参加した4名の子ども議員たち、本当にお疲れさまでした。皆さんの堂々とした姿と責任感のある行動に心から感謝します。また、今回希望者を募ったときに、多くの子どもたちが希望してくれました。今後も、子ども議員たちがさまざまな活躍の場を模索するとともに、子ども議員の新しい挑戦に取り組む姿をお届けしていきます。どうぞお楽しみに！

議論白熱！提案文作りが本格化

～第2回学習会 活動報告～

2024年10月14日(月・休)

滋賀県
子ども県議会
事務局発行 / No.8

いつも温かいご支援をいただきありがとうございます。
子どもたちはいよいよ提案文作成の段階に入りました！活動日には、これまでの議論をもとに意見をまとめ、提案文を書くためにチーム一丸となって取り組む姿が見られました。その様子をお伝えします。

ちょっと参加者少ないけど…

今回の活動では、急な振替実施日となり、参加者が少ない中でも、各チームで熱心な議論が行われました。一部のチームでは、決まったテーマに基づき、「どのように話を進めるべきか」を真剣に議論し、滋賀県の未来について深く考える様子が見られました。

提案文作りの様子

子どもたちは、これまでに付箋にまとめた内容をチームで再度見直し、以下のような作業を進めていました。

・課題や問題点の整理
付箋の内容を紐解きながら、課題や問題点を洗い出し、模造紙に書き直して整理。

・意見のまとめ
「私はこう考えている」「こうなってほしい」など、個々の意見を重ね、チームで意見をまとめていく過程で白熱した議論が展開されました。

苦労と学び

今回の活動では、子どもたちが以下のような苦労を経験しました。

・ニュアンスの難しさ
言葉のちょっとしたニュアンスの違いで考え方が変わり、意見をまとめる難しさを実感。

・具体性の追求
サポーターから「結局何が言いたいのか」と問われる場面もあり、自分たちの考えをより具体的に伝える必要性を感じたようです。

次回に向けて

提案文作りは次回も継続されます。今回の議論を踏まえ、より明確で説得力のある提案文が完成することが期待されます。議論を重ねるごとに、子どもたちが自分たちの考えを深め、形にしていく成長の姿が見られそうです。また、前回同様、今回も子どもたちが少しでも話しやすいようにと、学習会の中で色々とアイスブレイクができる時間も作っています。少しでも、議論の箸休めになればいいのですが…

提案文作成進む
～第3回学習会 活動報告～
2024年10月20日

滋賀県
子ども県議会
事務局発行 / No. 9

子どもたちはいよいよ提案文作成の段階に入りました！活動日には、これまでの議論をもとに意見をまとめ、提案文を書くためにチーム一丸となって取り組む姿が見られました。その様子をお伝えします。

意見をまとめる真剣な姿勢

昨年の事例とアドバイスをもとにスタート

子どもたちは、まず昨年の子ども県議会の様子をうーたんから教えてもらい、提案文作成の流れや具体的なイメージを掴みました。その後、県庁の職員さんから「伝わりやすい文章を書くための文法のコツ」を教えてもらい、活動の準備が整いました。

各チームでは、これまで話し合ってきた内容を紙にまとめる作業をスタート。前回欠席したメンバーにも意見を聞きながら、サポーターと協力して進める姿がありました。中には、意見が分かれたり、論点がずれてしまう場面もありましたが、付箋を使いながら議論を整理し、みんなで解決に向けて話し合う姿が印象的でした。

フリップや資料作りも進行中

提案文がほぼ完成したチームでは、当日の発表に使うフリップや資料作成にも取り掛かりました。うーたんや県庁の職員さんのチェックを受けながら、さらにブラッシュアップする姿勢が見られました。

疲れても未来を考え続ける子どもたち

長時間にわたる作業で頭を使い、さすがに疲れた様子の子どもたち。それでも「滋賀県の未来のために、自分たちができることを考えよう」と懸命に取り組む姿が頼もしく感じられました。

提案文作成を通じた学びと成長

提案文作成には、子どもたちが多くのスキルを身につけるプロセスが詰まっています。

1.意見をまとめる力
複数の意見を整理し、一つの形にまとめる過程で、問題解決力や協調性を学びます。

2.コミュニケーション力の向上
他の子どもたちやサポーターと意見を交換しながら、相手の意見を尊重し、自分の意見を伝える力を養います。

3.主体性と責任感
自分たちの提案が滋賀県の未来に影響を与えるという意識を持つことで、責任感を持って取り組む姿勢が生まれます。

次回に向けて

次回はいよいよ提案文の最終調整を行い、完成させます。この活動を通じて成長した子どもたちが、堂々と提案を発表できるよう、引き続き応援をよろしくお願いいたします！

チームで築き上げた11の提案

～第4回学習会 活動報告～

2024年11月10日(日)

滋賀県
子ども県議会
事務局発行 / No. 10

子どもたちが取り組んできた提案文がついに完成しました！

これまでの努力と積み重ねを通じて、今年はなんと11の提案が仕上がりました。

提案文作成の様子

学年や地域を超えたつながり

提案文作りを通じて、学年や地域の壁を越えた会話や交流が生まれ、和やかな雰囲気の中で議論が進みました。その中でも真剣に取り組むがゆえに、時にぶつかり合いながらも、率直に意見を交わし合うことができたのだと思います。

困難を乗り越える力

作成中には、論点がずれたり、資料が不足したり、意見がまとまらない場面もありました。しかし、再度付箋を使って意見を整理したり、中学生が中心となって言葉を整えたりと、チーム全員が力を合わせて乗り越える姿が印象的でした。どのチームも、「滋賀の未来が良くなるように」と、一生懸命に考え抜いていました。(大人でも難しいことを真剣に…)

今年の提案の特徴

今年の提案文では、子どもたちの意見を最大限に反映し、全ての提案を盛り込むことを目指しました。その結果、昨年よりも1つ多い11の提案が完成。子どもたちの考えや努力が詰まった内容となっています。

▼予定されている提案文

【1:琵琶湖】「滋賀の象徴・琵琶湖の未来をみんなで守れ」
【2:人権多様性】「バリアフリートイレのあり方」
【3:歴史】「歴史でつながる滋賀県に　歴史体験アプリ「シガcastle」」
【4:環境】「ホタルで溢れ、笑顔とワクワク感に満ちた滋賀県」
【5:居場所】「誰もが安心して過ごせる場所」
【6:子ども】「Childrenシガ～守ろう苦しむたくさんの子どもを～」
【7:観光魅力伝統文化】「滋賀の知られざる魅力を伝える二次元コード」
【8:農業】「農薬減少と米の生産量アップについて」
【9:地域交通】「誰もが過ごしやすいバス停にする為に」
【10:学校教育】「誰もが過ごしやすい学校にするために」
【11:公共交通と地域活性】「より良い滋賀の交通～「Lake traffic tour」～」

次回はいよいよ本番向けたリハーサル

提案文を仕上げた子どもたちは、次回のリハーサルに向けてさらに準備を進めます。リハーサルでは、発表練習や細部の確認を行い、本番に向けた最終仕上げをします。

子ども県議会に向けて

～リハーサル事前準備 活動報告～

2024年12月8日(日)

滋賀県
子ども県議会
事務局発行 / No. 11

12月25日の「子ども県議会」に向けて、事前準備が行われました。

今年の子どもたちの主体的な取り組みと成長が感じられる様子をお伝えします。

自分たちで決める力を発揮

今年の議長選出では、どのような方法で議長を選出するか、子どもたちが相談しました。11人の立候補者が集まり、次のようなプロセスで進められました。

①話し合いで5人に絞り込む
候補者同士が互いに意見を交換しながら、自分たちで選びました。

②読み方や態度で3人に選定
残った5人を参加者全員で見守りながら、公平に話し合いを進めました。

③最終投票で議長を決定
子どもたちが民主的に選び合い、議長が決まりました。

選考過程では、中学生や小学生の違いに囚われず、候補者の姿勢や読み方で判断が行われ、決定後は「頑張れよ」と励まし合う姿も見られました。勇気を出して立候補し、自分の意見を堂々と述べた候補者たち、そして真剣に話し合いに参加した全員が、1年間で築いた信頼関係を感じさせてくれました。

▲昨年議長を経験した子が、今年議長になった子にアドバイスをしていました。

本番に向けて

本番に向けて、ご家庭でも提案文の練習をお手伝いいただければと思います。12月25日には、滋賀県の子ども議員として、堂々と自信を持って発表する姿を楽しみにしています。

子どもたちの主体的な準備

子どもたちは、「子ども宣言」の読み手や提案文の役割を、自分たちで話し合いながら分担しました。昨年から始まった「自分たちで決める」取り組みが、今年さらに発展し、自主性と協力が感じられる姿が印象的でした。
午後の練習では、議会での礼儀作法やお辞儀の仕方、提案文の読み方などを丁寧に確認しました。緊張の中でも一生懸命取り組む子どもたちの姿があり、サポーターやスタッフのフィードバックを受けながら、声の揃え方や挙手の仕方を工夫しつつ成長していく様子が見られました。

子ども県議会

2024年12月25日(水)

滋賀県
子ども県議会
事務局発行 / No.12

令和6年12月25日、子ども県議会を開催しました。40名の子ども議員は、7月27日（土）に任命されて以来、3回の地域体験活動と5回の学習会を重ね、広い視野で滋賀県について考えてきました。自分自身のことだけでなく、周囲の人々、びわ湖の環境、そして滋賀の未来について真剣に向き合い、子ども議員同士で意見を共有してきました。

集大成として、滋賀県議会議場において、滋賀県をより良くするための11個に及ぶ「質問」や「子ども宣言」の発表を行いました。当日は、滋賀県議会から有村國俊議長、小川泰江教育・子ども若者常任委員会委員長を来賓としてお迎えしました。歴史ある県議会議場で、子ども議員たちはそれぞれの役割を果たし、堂々と発言する姿が見られました。

有村滋賀県議会議長、小川教育・子ども若者常任委員会委員長からご挨拶

どうすれば「滋賀県に生まれてよかった」「住んでよかった」と思っていただけるのか、滋賀県の良いところを残しつつどうやって課題を解決できるのか等、考えるべき事はたくさんあります。皆さんも社会の一員として大いに話し合って頂きたいと思います。

滋賀県議会　有村議長

ゆっくり深呼吸をして、皆さんの思いが知事はじめ、当局の皆様にしっかりと伝わるように、頑張ってください。

教育・子ども若者常任委員会
小川委員長

子どもたちが選んだ、3人の子ども議長が進行を務めました!

今回の本番を終えて、緊張しましたが、全力を出しきれたと思います。

田中 亮成さん

自分の番が近づいてくると緊張して不安になったけど、落ち着いて話せてよかった。

田中 杏菜さん

実際に提案を実現させるために、たくさんの人の協力があるということを学んだ。

山崎 心温さん

11個の提案を堂々と そして11の答弁をいただきました!

1

滋賀の象徴・琵琶湖の未来をみんなで守れ

三日月知事 答弁

2

バリアフリートイレのあり方

山田健康医療福祉部長 答弁

3

歴史でつながる滋賀県に

東郷文化スポーツ部長 答弁

4 ホタル UP プロジェクト

中村 琵琶湖環境部長 答弁

5 誰もが安心して過ごせる居場所

岸本 副知事 答弁

6 守ろう苦しむたくさんの子どもを

村井 子ども・若者部長 答弁

7 滋賀の知られざる魅力を伝える二次元コード

林 商工観光労働部長 答弁

8 農薬減少と米の生産量アップについて

中田 農政水産部長 答弁

9 誰もが過ごしやすいバス停にする為に

波多野 土木交通部長 答弁

10 誰もが過ごしやすい学校にするために

福永 教育長 答弁

11 より良い滋賀の交通「Lake traffic tour」

三日月知事 答弁

子ども宣言

子ども宣言 採択

三日月知事からメッセージ

7月27日の任命式の時に3つの「み」を大切にしてくださいと言いました。身の回りのこと、みんなのこと、未来のことを考えられる議員さんになっていただければとみなさんに投げかけました。今日のご質問やご提案、動作、最後の子ども宣言を見て、私がお願いした呼びかけたメッセージそれぞれに体現しているなと思い、とても嬉しく心強く思いました。やっぱりみんなの力はすごいと思いました。みんなが調査して、みんなで議論して作って、とっても説得力のある提案や質問をして頂いたからだと思い、感服しました。 ここで答弁して終わりではなく、これからも参画してくれたら嬉しいと思います。

ふりかえり交流会

2025年2月1日(土)

滋賀県
子ども県議会
事務局発行 / No.13

令和7年2月1日「ふりかえり交流会」を開催しました。この交流会は、子ども県議会後の取り組み状況や提案内容について、自由に意見交換を行うことを目的としています。午前の部では、子ども議員だけで久しぶりの再会を喜び合い、子ども県議会後に取り組んできたことや、今後挑戦したいことについて語り合いました。午後の部では、県の職員も加わり、子ども県議会での提案内容や、それを踏まえてさらに深めた考えについて意見交換を行いました。子ども議員にとっては、これまでの活動を振り返り、子ども県議会で伝えきれなかった思いや考えを県の職員に直接伝える貴重な機会となりました。一方、県の職員にとっても、子どもたちの率直な意見を聞くことで、より深い理解につながる有意義な場となりました。今後も、子どもと大人が一緒に考え、意見を交わす場を大切にしていきたいと思います。

はじまる前に!

午前中は、自分たちの提案文などを振り返り、お昼からどんな話をするかみんなで話し合いました。

司会や挨拶も子どもたちで誰がするかを、子どもたち自身で決めてもらいました。

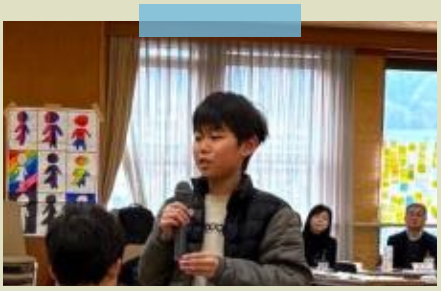
県庁職員さんをお招きして、懇談スタート!

午後の意見交換会のはじまりの会では、進行やはじめの言葉も午前中に子どもたちが決めた子ども議員が行いました。10名の県庁職員さんがきてくださいました。みんなちょっと緊張しています。

子ども県議会当日に答弁した岸本副知事、福永教育長はじめ、一人ずつ自己紹介がありました。普段している仕事の内容をていねいに教えていただきました。

「琵琶湖・環境、農業」「子ども、学校・教育」「観光・魅力、伝統・文化・歴史」「公共交通」「人権多様性、居場所」の5つのグループに分かれ、1回目は子ども県議会で質問したこと、2回目は「滋賀県の未来」について意見交換を行いました。

みんなとても真剣に、時折和かに「どういう想いで作ったのか」「なんでそんなことを考えたのか」を話しました。また、子ども達から見える課題や県庁の職員さんから現状の課題の共有、問題提起をみんなで話し合いました。



各グループでの内容をみんなに共有もしました。

最後に、岸本副知事から、お言葉をいただきました！

「ここが疑問だな」「ここがおかしいな」「こうした方がいいな」と思ったことを人に説明したり、発信したりすることを期待しています。ただ、文化や習慣、価値観が違う人がたくさんいます。でも、諦めるのではなく、お互いの目線に立って、相手の気持ちを考えて話すことも大切にしてください。

最後は、子どもたち・県庁職員さんと一緒に集合写真を撮りました。

今年の活動はこれで最後!

このふりかえり交流会で、今年度の子ども議員の活動は終了しました。子どもたちは、満足感・達成感でいっぱいのように見えました。これまでの活動を通じて考えたことや学んだことを大切にし、よりよい滋賀県にするために、これからも共に考え行動してくれることを期待しています。